

# 「2031月寒のまち」の目指す姿

## まちづくりのテーマ

### みんながいきいき にぎわいある月寒のまち

～ひとのつながりで、暮らしやすいまちへ～

#### 目指すまちの姿

月寒には大学生や若い世代、子育て世代も多く暮らしています。

2031年(令和13年)の月寒は、高齢化で増えている高齢者から若い世代、子どもまで、健康に生き生きと暮らすことができるまちを目指します。

#### 2031月寒のまちのイメージ

月寒のまちには、かつて映画館やデパートもあり、豊平のにぎわいの中心でもありました。

そうしたまちの歴史を引き継ぎ、2031年(令和13年)の月寒のまちも商店街などに若い世代によって交流の場がつけられ地域の人々が集まり、ひとのつながりが生まれ、そこからにぎわいがつくりだされています。

また、住宅地にでも地域住民が中心になって地域の居場所(サードプレイス)などが運営され、地域住民同士の交流やにぎわいが生まれています。

子どもや若い世代から高齢者まで健康で生き生きと暮らし、人の交流によってにぎわいが生まれている月寒のまちは、人のつながりがその基になっています。

ひとのつながりによって子どもや高齢者の見守りや子育て支援、ひとり暮らしで孤独を感じている人たちのケアにつながって、暮らしやすいまちを実現しています。



## 月寒の5つのまちづくりの基本方針

### 1 歴史を知り・学び愛着と誇りをもてるまちづくり

月寒は豊平町の中心として栄えた歴史があります。古くから住んでいる人はもちろん、新たに月寒に移り住んできた人もこれらの貴重な歴史を受け継ぎ共有することによって、月寒への愛着と誇りにつながるようにします。

歴史をはじめとした地域情報に住民がアクセスしやすくすることによって、地域全体で月寒のことをより良く知り、月寒の住民としての一体感や連帯感を育むことを目指します。

また、学校の取り組みに地域が積極的に協力するなどして、子どもの頃から月寒を知り・学ぶ機会をつくることで愛着と誇りを醸成するようにします。

### 2 にぎわいと活気のあるまちづくり

月寒にはかつてデパートや映画館があり多くの人々が訪れ、にぎわいがありました。

今後のまちづくりにおいても月寒の中心軸である商店街エリアを中心として、学生や若い世代と一緒に人々が交流する場や機会をつくり、にぎわいと活気のあるまちづくりを進めます。

また、空き家や空き施設などを活用し、住民自らが考える交流イベントやにぎわいづくりを支援することで、活動の担い手不足の解消とさらなる活気のあるまちを目指します。

### 3 子育てしやすい子どもにやさしいまちづくり

月寒には、子育て世代も多く住んでいます。これまで培われてきた人のつながりを生かし、まち全体での子どもの見守りを意識づけ、地域食堂などの子育て支援活動に協力することで、安心して子育てができるまちを目指します。

町内会などでも、多世代交流の場を設けるなどして、まち全体で子どもの成長を支えるまちになるようにします。

また、子どもを対象にした町連のイベントの充実により、月寒に住む子どもたちのふるさと意識を醸成します。

### 4 高齢者にやさしいまちづくり

高齢者が健康で生き生きと暮らせるように、町連や町内会などが行う子育てサロンなどの取組において、高齢者が活躍できる仕組みを整え、地域コミュニティを支えることが高齢者の生きがいにつながるようにします。

今後、月寒においても高齢化が進むことから、大学などの関連機関と連携した健康づくりのプログラムを普及させ、元気な高齢者が多いまちになるようにします。

### 5 情報でもつながるまちづくり

月寒のまちのポータルサイトをつくり、月寒の歴史や魅力、イベント、子育てサロンなど月寒のさまざまな情報をタイムリーに提供し、外部の人も月寒の魅力を知り、「住んでみたいまち」として認知されるよう、まちの価値を高めます。

ポータルサイトに加えてSNSなど多様な手段で情報発信を行い、各世代に広くまちの情報を伝えるとともに、学生や若い世代にも情報が届くようにし、若い世代がまちづくりに参加するきっかけとなるようにします。

また、若い世代が中心となって、オンラインミーティングやさまざまなテーマのオンラインワークショップが開催されるような支援を行い、人のつながりを大切にしてきた月寒で新しいかたちでの人のつながりをつくるようにします。